

# さんむのふるさと散歩

NO.51

## 前期古墳から鏡発見！

私たちが普段何気なく使っている鏡。

読者の皆さんも、お出かけ前に鏡の前に立って身だしなみを整えたりして日に何度か使用されていることと思います。

今でこそ私たちの生活に身近な存在の鏡ですが、古墳時代には一部の権力者のみが持つことを許された特別な品だったのです。

鏡が特別な品だった頃は、実用品（自分の姿かたちを写す）と言うより、太陽信仰の道具（太陽光を反射させたり集めたりして五穀豊穡の源である太陽光を祀る）や重要な相手への贈り物として使用されたようです。

山武市内からは古墳時代の鏡が5枚出土しています。

そのうち4枚は島戸地区に所在する島戸境一号墳から出土したものです。

島戸境一号墳は、規模が直径約二〇mを測る円墳（円い古墳）で四世紀後半に造られたものです。

島戸境一号墳で鏡が発見されるまでは、市内からは1枚も鏡の出土はありませんでした。



島戸境一号墳出土  
連孤文鏡

そもそもこの時期の古墳を調査しても鏡が出土する事は極めて稀なことなのです。それが一度に4枚も出てくるといことは、中央政権と関係の強い豪族の古墳だったのだろうと想像されます。

また、それまでは市内で発見される古墳が六世紀後半以降のものばかりだったので、四世紀後半段階の古墳の発見に、研究者からは二重の驚きをもって迎えられ、新聞紙上も賑わせました。

島戸境一号墳の発掘から程なくして、市内森地区で森台（北野支

群）古墳群四・五号墳が発見・発掘されました。この五号墳から鏡が1枚出土したのです。

調査の結果、この二つの古墳は、島戸境一号墳を遡ること50年程古い時期に造られたものと判りました。

歴史民俗資料館では、今回紹介した鏡の資料のほか、人物埴輪や古墳発掘の様子を紹介する企画展「掘り出された山武の古代Ⅲ」〈前期古墳から銅鏡四面出土！島戸境一号墳〉を開催中です。

また企画展関連の講演会も実施します。ぜひ足をお運びください。

問 歴史民俗資料館

☎(82)2842